

「紙パイプロボット」

京滋企業 最前線

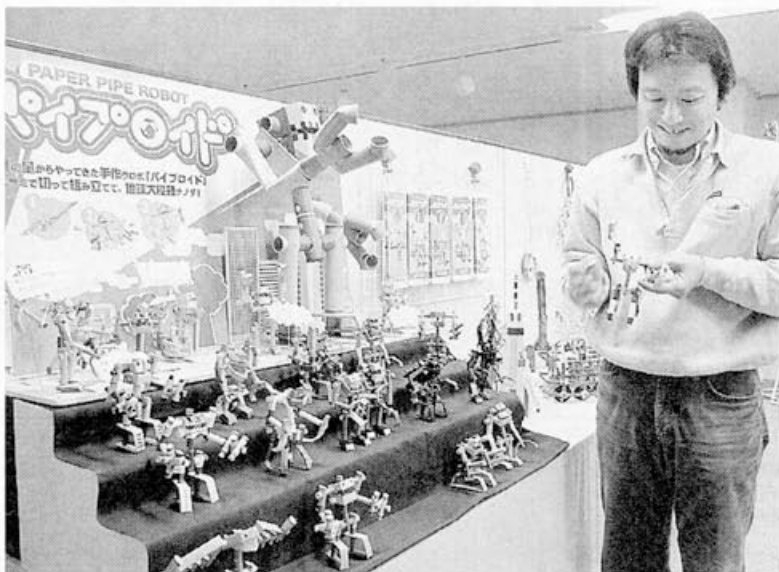
コト 京都市中京区衣棚通御池下ル

不要になったチラシを丸めた紙パイプを組み合わせ、機関車や動物、ログハウスなど自由に模型を作ることができる。材料が紙なので、切ったり穴を開けたり加工も自在だ。この紙パイプを作るキット「ひねもす」で、テレビゲームなどに慣れ親しんだ子どもに手先を使う創造的な遊びを提案し、話題を呼んでいる。

京都市内の玩具企画会社と共同で開発し、二〇〇三年春に発売した。キットの中身は、太さの違う二種類の紙パイプを巻くための手巻き器と穴開け器など単純な道具だけ。「部品自体を手づくりするため、ブロックが人具のようにお金をかけずに、全長数センチも及ぶ巨大作品が作れるのも魅力です」と窪田和弘

《XMO》 任天堂で携帯ゲーム機「ゲームボーイ」を開発した横井軍平氏が1996年に設立。資本金2000万円。従業員33人。コンピューターソフトやゲーム機器、半導体の企画、設計、開発のほか教育玩具も販売する。2006年5月期の売上高は15億円の見込み。

工作の楽しさ 世界に



「世界に広めるのが夢」と、ひねもすを手にとる窪田和弘社長 (京都市中京区・コト)

社長(四七)。ひねもすの名前は、「ゲーム好きの子でも夢中に一日中楽しんでもらおうと名付けた。親子のコミュニケーションにも役立ててほしいと言う。発売以来、幼稚園や保育園、小学校など教育現場の教材や、環境イベントの展示用などに着実に浸透してきた。窪田社長は、

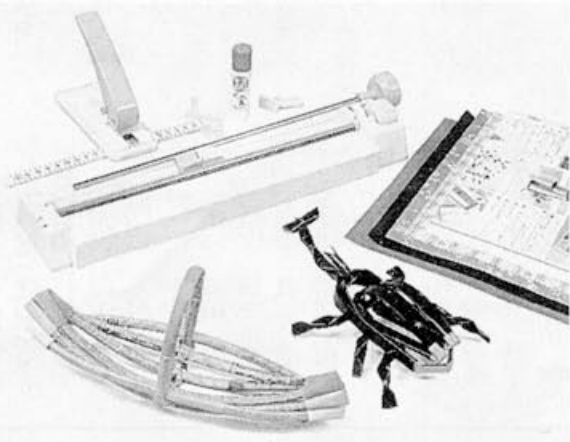
「ゲーム好きの子でも夢中に一日中楽しんでもらおうと名付けた。親子のコミュニケーションにも役立ててほしいと言う。発売以来、幼稚園や保育園、小学校など教育現場の教材や、環境イベントの展示用などに着実に浸透してきた。窪田社長は、

「ゲーム好きの子でも夢中に一日中楽しんでもらおうと名付けた。NEC時代に仕事で知り合った窪田社長は、横井氏が交通事故で亡くなった後、九年に開発部長として入社。「世の中を楽しくしよう」と横井さんが作った会社をなくしたくなかった」。二〇〇一年九月から社長として先頭に立つ。

電子機器やソフトウェアの研究開発が主力で、一九九九年に企画製作を手がけ、バンダイが発売した携帯ゲーム機「ワンダースワン」がヒット。娯楽機器の企画・開発を中心に、半導体LSIの設計、携帯電話ゲームなどの開発で実績を積んできた。

「それぞれが好きなことをやって、社会に貢献しよう」という社風で、社員が自由にアイデアを提案できるように、製品の企画開発はすべて各部にまたがったプロジェクト制を進める。役職に関係なく各企画に適したリーダーを決める。今年二月に発売し、品切れ状態の大人向け工作ロボット「パイプロイド」も

半導体チップと手作りの工作キットは対極の事業にみえるが、窪田社長は「アナログなおもちゃは今でも面白い。何でも楽しさを追求していきたい」と話し、ひねもすは息長く売れ込んでいくつもりだ。



専用ローラーや穴開け用のパンチが入ったひねもすキット

毎月第二、四日曜日に掲載します。